

地域整備方針案

(京都市)

地域名称	整備の目標	都市開発事業を通じて増進すべき 都市機能に関する事項	公共施設その他の公益的施設の 整備及び管理に関する基本的事項	緊急かつ重点的な市街地の 整備の推進に関し必要な事項
京都駅周辺・京都南部油小路通沿道地域	<p>〔都市再生緊急整備地域〕</p> <p>○京都の都市格の象徴として都市活力をけん引するとともに、ものづくり産業などの集積を図り、快適な暮らしひとも調和する都市環境を創出するなど、京都の新たな活力を生み出す創造ゾーンの中心を形成</p> <p>(京都駅周辺地区)</p> <p>○京都都市圏の中核を担う京都駅とその周辺地域において、都市活力をけん引するオフィスビルや商業施設などの都市機能の高度集積を推進</p> <p>○市立芸術大学移転や市中央卸売市場の再整備、梅小路京都西駅の開業を契機として、クリエイティブなまちづくりの機運が高まり、アートやデザイン、ものづくり、伝統・先端産業などが融合した様々な取組・活動を展開</p> <p>○災害に強く観光客を含む様々な人々が交流できる広域的かつ多機能な複合拠点</p>	<p>○効果的な土地・空間利用によるゆとりあるオープンスペースを活かし、賑わい機能の創出や防災機能を強化</p> <p>○京都駅と梅小路京都西駅の交通利便性を活かし、情報化に対応した業務機能、観光客等広域的な集客機能を持つ商業・観光・文化・交流機能等多様な都市機能を集積</p> <p>○京都市中央卸売市場第一市場整備に伴い生み出される「有効活用地」の活用</p> <p>○五条通沿道への新産業の創出につながる産業クラスターの形成や新たな商業機能の誘致</p> <p>○大規模災害時においても、各種都市機能への影響を出来る限り軽減し、滞在者の安全を確保するための防災性の向上</p>	<p>○公共施設整備や都市開発事業で生み出されたオープンスペースを活かした魅力的な空間の確保</p> <p>○京都駅において、バス・タクシー乗降場の機能充実をはじめとする交通結節機能の強化や安全性にも配慮した歩行者のためのゆとりある空間創出</p> <p>○災害時における、京都駅ビルを含むターミナル周辺の人の流動を踏まえた、地域内の公共施設の機能の確保及び帰宅困難者を含む滞在者に対する避難場所・物資・情報の提供のための施設確保、より安全な動線の確保</p>	<p>○エリアマネジメントによる地域の活性化の取組</p> <p>○敷地内や屋上の緑化、建築物等の省エネルギー化や木質化、災害対応も想定した効率的で安定的なエネルギーシステムの導入等による脱炭素化を推進</p> <p>○快適で効率的な移動の創出を図るため、IoT や AI、自動運転、MaaS の導入の推進</p> <p>○京都駅から世界遺産である東寺の景観を阻害せず、東寺や京都駅ビルの高さと調和する、都市の歴史的景観特性に配慮した都市開発事業の推進</p> <p>○歩行者ネットワークの充実等、京都駅を軸に人と公共交通優先のまちづくりの推進</p> <p>○都市開発事業の契機等をとらえ、備蓄倉庫の設置や一時滞留可能な空間等を確保するための支援・誘導の実施</p> <p>○京都駅周辺地区において、官民連携による大規模災害を想定した訓練の実施</p>

	<p>を形成</p> <p>(京都南部油小路通沿道地区)</p> <p>○京都の北部地域を「保全」、都心部地域を「再生」、南部地域を「創造」とするまちづくりの基本的な枠組みのもと、名神高速道路等の広域交通結節点に近接するという立地特性を活かし、京都市南部の南北幹線道路である油小路通を中心とした地域において、新たな都市機能の集積により、京都の都市活力を担い災害にも強い先導的な中核拠点を戦略的に形成</p>	<p>○知識・技術・情報集約型の先端産業をはじめとする研究開発・生産機能、商業・業務・文化機能、居住機能等の多様な都市機能を集積</p> <p>○産学公連携による研究開発拠点の整備</p>	<p>○京都市の南北・東西方向の広域的な交通機能の強化と災害時のアクセス確保を図るため、第二京阪道路等を整備</p> <p>○地区内の交通の円滑化等に資するため、歩行者に配慮したうるおいのある道路を整備</p> <p>○地区内外のアクセス強化を図るため、交通基盤の整備について検討・推進</p>	<p>○鴨川等の水辺環境や緑豊かな後背地との調和に配慮した都市開発事業を促進</p>
--	---	--	---	--